保 証 書

本書は、本書記載内容で無料修理をさせて頂く事をお約束するものです。
お買い上げの日から、下記期間中故障が発生した場合、本書に領収書またはレシートを付けてお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

機種名		PUM-270S AA型	
保証期間		お買上げ日より1年間	
御客様	御名前	様	TEL
	御住所	〒	
取扱販売店名・住所・電話番号			

● 保証規定

1. 取扱説明書の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、お買い上げの販売店にご連絡の上、本保証書を添えてご依頼ください。
2. 保証書の有効期限は、お買い上げ日より1ヶ年と致します。
3. 保証期間内の修理は無償と致します。
4. 保証書の期間経過後は、有料修理とさせて頂きます。
5. 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
   イ）お買い上げの販売店の捺印及び記入欄に未記入、あるいは字句を書換えられた場合。
   ロ）保証書を紛失したり提示がない場合。
   ハ）取扱説明書の注意書にそわず誤った使用をした場合。
   ニ）不当な修理や改造をされた場合又は純正部品以外の使用で生じた故障。
   ホ）火災・地震・水害・公害その他特殊な外部要因に起因する故障及び損傷。
   ヘ）時の経過による変化で発生した不具合（塗装面などの自然退色とか機能上影響のない音、振動、オイルのにじみ）
   ト）一般消耗品で自然消耗、破損と認められるもの。
   チ）長期保管（1ヵ月以上）し、劣化した燃料を使用してのエンジン焼付き、気化器の詰まりなど。
6. レンタル、リースについては、保証適用の対象外となります。
7. 本書は日本国内においてのみ有効です。
8. 本書は再発行致しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

株式会社 日工タナカエンジニアリング

・東京支店：〒275-0016 千葉県習志野市津田沼3丁目4番29号 ☎(047)475-8553
・札幌支店：〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目2-20 ☎(011)896-3466
・東北支店：〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東三丁目3番36号3階 ☎(022)390-5227
・名古屋支店：〒451-0051 愛知県名古屋市西区則武新町1丁目32番16号 ☎(052)589-6868
・大阪支店：〒567-0851 大阪府茨木市真砂2-15-8 ☎(0726)32-8015
・九州支店：〒841-0202 佐賀県三養基郡基山町大字長野793-1 ☎(0942)92-6077

(16001A-J9)

310
部品コード　E99251802

モデル PUM-270S 型

取扱説明書

ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。

ナイロンカッタは当社の純正品を説明書に従って正しく使用してください。
他社製品を使用しますとエンジントラブルの恐れがあり、保証の対象とはなりません。
お取扱いには十分注意してください。

970-48058-201　　2013.10

はじめに

このたびは当社の背負式刈払機をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。安全にいつまでもご利用いただくため、ご使用前に取扱説明書を良く読んで内容をご理解の上ご使用ください。
また取扱説明書は必要に応じいつでも取り出せるように保管しておいてください。

目　次

〔1〕警告表示について

当該製品に関する安全な使用方法、予見可能な危険の排除、誤使用による危険回避などを目的に本機及び取扱説明書に下記の表示をしております。これらの表示以外に関しても十分安全に配慮してご使用ください。

本機に使用の警告マークの意味について

図 1-1

- 取扱説明書を良く読んで内容を十分理解し、誤った使用で不慮の事故を起さないように注意すること。

図 1-2

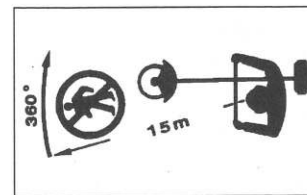
- 取扱説明書または本機に表示の危険、警告、注意マークなどに従って安全に使用してください。

図 1-3

- 保安帽（ヘルメット）、保護メガネ、手袋、安全靴など防護具を着用してください。

図 1-4

- 切削物の飛散方向に注意してください。

図 1-5

- 背負式刈払機の作業者から 15m 以内を危険区域とし、この中に作業者以外の人が入らないこと。また、数台同時に作業するときもこの距離は守ってください。

取扱説明書に使用の危険、警告、注意、〈注〉表示の意味について

⚠危険 ● 誤った取扱いをすると死亡または重傷となる危険が即時におこる。

⚠警告 ● 誤った取扱いをすると死亡または重傷となる危険の可能性がある。

⚠注意 ● 誤った取扱いをすると軽傷または中程度の障害を生じる危険の可能性がある。

〈注〉 ● 製品に関する危険、物的損害の回避策を知らせます。

〔2〕背負式刈払機の安全使用のために

背負式刈払機を安全に使用するために、次の事項は必ず守ってください。

1. 全般的なこと

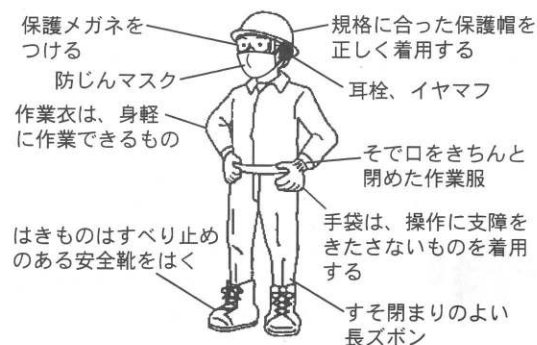
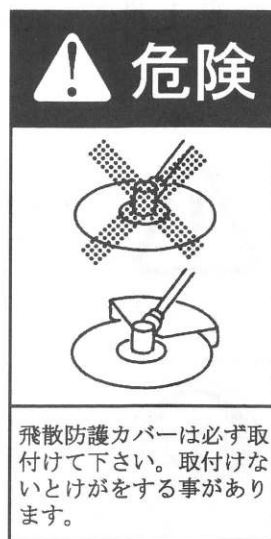
⚠危険 (1) 飛散防護カバーは必ず取付けること。(図 2-1)

⚠警告 (2) 背負式刈払機は雑草を刈るために設計、製造されています。枝打ち作業などには絶対使用しないでください。

(3) 長袖、長ズボン（ダブダブしない身体に合った、袖じまり、裾じまりの良いもの）を着用し、頭部にはヘルメット（JIS などの規格に合格した保安帽など）を着用するとともに、手袋、保護メガネを付け、足元保護のためすべりにくい安全靴をはいてください。(図 2-2)

飛散防護カバーは必ず取付けて下さい。取付けないとけがをする事があります。

図 2-1

図 2-2

(4) ホコリの多い場所では防塵マスクを着用してください。

(5) 呼び子（ホイッスル）、斧（おの）、なたを用意してください。

(6) 疲れている時、身体の調子の悪い時、飲酒をしたり薬物を服用した時は使用しないでください。

(7) 子供や取り扱いの指導を受けていない人には使用させないでください。

(8) 刈払機を初めて使う人に使わせる場合は事前に基本的な操作方法や安全な使い方を実際にやってみせること、と同時に必ず取扱説明書を付けてください。

(9) 夜間及び天候の悪い時は使用しないでください。

(10) 換気の悪い場所（屋内、トンネル内など）での作業はしないこと。（排気ガスは有害ですので直接吸わないでください）(図 2-3)

(11) 警告表示マークが見えなくなったり、はがれたり、不鮮明になった場合は新しい警告表示マークと取替えてください。

図 2-3

2. 使用の前に

(1) 機械の点検

⚠危険 ① 刈刃は、確実に取付けられているか、目立てはどうか、損傷はないかを確認し、異常のないことを確認してから使用してください。

⚠危険 ② ナットカバーは消耗品です。異常のないことを必ず確認してから使用してください。損傷、摩耗等している場合は必ず交換してください。

⚠危険 ③ 飛散防護カバー、肩掛けバンドは必ず取付けてください。

⚠危険 ④ 燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えていることを確認し、火気のない通気の良いところで行ってください。補給中に燃料をこぼした時は、引火のおそれがありますので、十分に拭き取ってください。(図 2-4)

⑤ 各部のゆるみがないか、グリス、燃料が入っているか、燃料漏れがないかを点検し、異常がないことを確認してから使用してください。

図 2-4

⑥ 本機は2サイクルエンジンですので、混合燃料25～50：1（無鉛ガソリン：2サイクル専用オイル※）を使用してください。
※ JASO規格　FC級オイル
ガソリンだけでエンジンをかけたり、混合比を間違えるとエンジンが故障する原因になります。
（図2-5）

図2-5

（2）作業場所の点検

① 空缶、針金、小石などの有無を確認し、ある場合は取り除いてから作業をしてください。
② 背負式刈払機の作業者から15m以内を危険区域とし、この中に作業者以外の人が入らないこと。また、数台同時に作業するときもこの距離は守ってください。

（3）作業時間

1日の作業時間(注)は2時間以内にしてください。また、長時間の連続使用を避け、30分作業したら5分以上休憩してください。

- 疲労は事故の最大の原因です。作業はゆとりを持って行ってください。
- 国有林では、作業者の健康管理のため次のような指導をしております。

1回の連続使用	30分以内
連続使用日数	3日以内

1週の使用日数	5日以内
1ヶ月の使用時間	40時間以内

（注）1日の作業時間は『仕様』に記載されている「振動3軸合成値」から、厚生労働省の通達で次のように決められています。
① $10m/s^2$より小さい場合：2時間以内
② $10m/s^2$より大きい場合：次の式により算出した時間以内
$T = 200 \div (a \times a)$　T：1日の最大作業時間（時間）
a：振動3軸合成値（m/s^2）

（4）エンジンの始動

⚠警告 ① エンジンを始動する時は、周囲（15m以内）に十分注意し、刈刃は地面に触れないようにしてください。
② 漏れた燃料への引火防止のため、燃料を入れた場所より3m以上離れた所で、エンジンを始動すること。
③ 始動する時、スロットルはアイドリングの状態にしてください。
④ 排気を吸わないように注意してください。
⑤ 回転を上げる場合は急激に上げず徐々に回転を上げてください。回転はむやみに上げないでください。

3. 作業時

（1）運転

図2-6

⚠危険 ① 飛散防護カバーは必ず取付けて作業してください。取りはずすことは危険ですので絶対にはずさないでください。
⚠危険 ② 回転中の刈刃は大変に危険です。絶対に触れてはいけません。触れると死傷することがあります。（図2-6）
⚠危険 ③ 仕様欄に表示されているサイズを超える刈刃は使用してはいけません。
⚠警告 ④ 刈刃が石などの硬い物に当たった時は、すぐにエンジンを停止し、刈刃に異常がないかを確認してください。異常があった場合は作業を中止し、新しい刈刃に交換してください。
⚠警告 ⑤ 刈刃部に草などが巻付いた場合は必ずエンジンを停止し、刈刃の停止を確認してから草などを取り除いてください。（草が巻付いたまま作業をするとクラッチがすべりクラッチケースが溶損する場合がありますので必ず取り除いてください）

〈注〉・ 草の飛散や刈払機との接触、排気ガス等で衣服を汚す場合があります。作業は汚れてもいい服装で行ってください。

⑥ 作業はゆとりをもって行ってください。
⑦ 刈払作業は腕力で振り回したりせず正しい姿勢でバランスを取って行ってください。
⑧ エンジンの回転速度をむやみに上げず、作業を行ってください。
⑨ 刈刃は右から左へ掃くように作業してください。（図2-7）
⑩ 刈払作業以外に刈刃を回転させたり、水や土を切ったりしないでください。刈刃を回転させた状態で、刈刃が水に触れると反動ではね返ってくることがありますので十分注意してください。
⑪ 刈刃は必ずメーカー指定の純正品を使用してください。

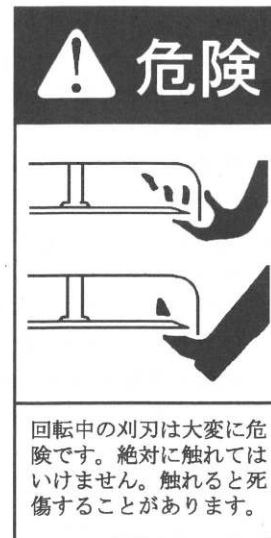



図2-7

⑫ エンジンが回転すると逆方向に力がかかる場合（スラスト）があります。ハンドルなどをしっかりと握ってください。
⑬ 2人以上で作業する場合は呼び子などでの合図の方法をあらかじめ決めて、合図の徹底を図ってください。また、人と人との間は15mを保ってください。
⑭ 作業中に立ち話は絶対にしないでください。話をする時はエンジンを止めてください。
⑮ 電気ショックを受ける可能性がありますので、作業中は点火プラグキャップ部、高圧コードに触れないでください。
⑯ やけど防止のため､作業中はもとより､エンジン停止後もしばらくはエンジン本体、マフラー特に排気口などに触れないでください。
⑰ 場所を移動する時、背負式刈払機を地面におろす時、作業を中断する時は必ずエンジンを停止し、刈刃の停止を確認してから行ってください。
⑱ クラッチケース及びクラッチ溶損防止のためクラッチミート（クラッチが入る）付近の低速で長時間の使用はしないでください。
⑲ クラッチミート付近での使用は振動発生、故障の原因になりますので低速での使用はしないでください。
⑳ 背負式刈払機が故障した時は、取扱説明書の「故障診断」をご覧ください。「故障診断」で対応できない場合はお買い上げの販売店にご相談ください。

4. 作業後

(1) 使用後の手入れ

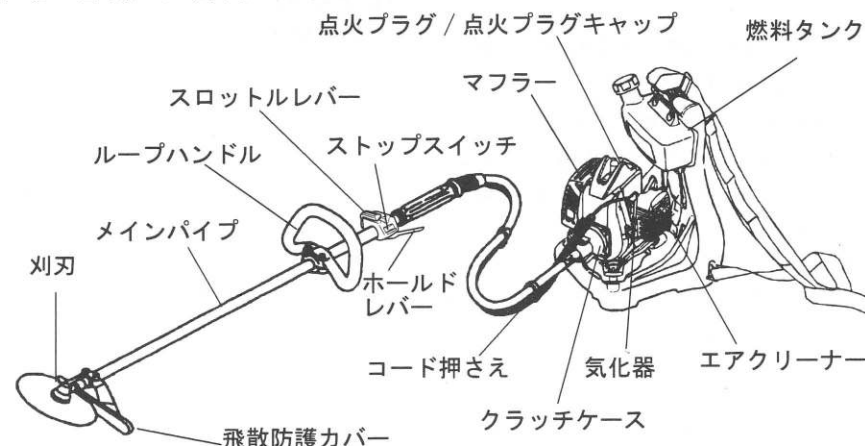
① 全体のチリやホコリをよく取り除いてください。　特にエアクリーナー部分の付着物に注意してください。
② 各部の締付ネジの緩みがないか、刈刃に損傷ないかを点検し、ネジの緩みがあれば締付け、刈刃に損傷があった場合はメーカー指定の純正の刈刃と交換してください。　**刈刃の交換の際は必ず手袋を着用してください。**
③ 燃料やギヤケースのグリスもれがないかを点検し、もれがある場合は修理してください。
④ 修理・調整をするときはエンジンを停止し点火プラグキャップを点火プラグからはずしてください。
⑤ 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をお使いください。
⑥ 車で移動、運搬する時は、タンクの燃料を完全に抜き取ってください。

〔3〕仕　様

	モデル	PUM-270S
エンジン	型式	強制空冷2サイクルガソリンエンジン
	気化器	フロート型
	排気量	26.9 mL
	点火プラグ	NGK BPM6A
	使用燃料	混合燃料 無鉛ガソリン：2サイクル専用オイル（25～50：1）
	タンク容量	1.2 L
本機	駆動装置	遠心クラッチ、クラッチドラム、フレキシブルシャフト、駆動軸、ピニオン、ギヤ
	減速比	ピニオン13T、ギヤ19T
	ハンドル	ループハンドル型
	刈刃種類	チップソー（φ 230mm-36P）
寸法（背負部分）		（全長）×（全幅）×（全高）332 × 326 × 415mm
質量		8.2 kg
振動3軸合成値※1		2.2 m/s^2 ※2

※1：振動3軸合成値（周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値）については、当社ウエブサイト　http://www.nikko-tanaka-eng.co.jp/products/one_point/karibarai_sanjiku.html を参照ください。
※2：振動3軸合成値は、ISO 22867 : 2004 規格に基づき測定しています。

用途　○一般の草刈り、雑草刈り　○果樹園の下刈り　○牧草刈り、稲、麦刈り

〔4〕各部の名称

〔5〕本機の組立て

⚠危険 • **エンジン単体またはクラッチケースをはずしての運転は絶対にしないでください。クラッチシューがはずれ非常に危険です。**

1. メインパイプとフレキシブルライナーの接続

〈注〉• **メインパイプとフレキシブルライナーの接続をする際は、ジョイントパイプにはいっているダンボールを取り除いてください。**

(1) フレキシブルライナーにシャフトグリップを通します。

(2) ジョイントパイプに仮留めしてあるボルト (1) をはずします。この際、ボルト (2) をゆるめないでください。(図 5-1)

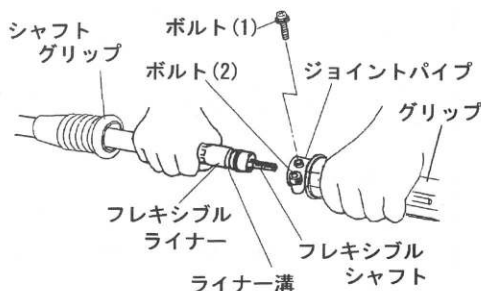



図 5-1

〈注〉• **ボルト (2) を締めすぎるとフレキシブルシャフトが回らなくなることがあります。**

(3) フレキシブルライナーをジョイントパイプに完全に差し込み、中のフレキシブルシャフトを結合させます。

(4) ジョイントパイプのボルト (1) をライナーの溝に合わせて確実に締付けます。

〈注〉• **ボルト (1) を締付ける際は、ジョイントパイプの穴位置とメインパイプの穴位置を合わせてください。**
• **フレキシブルシャフトをジョイントパイプ内の正方形の穴に確実に入れてください。**

(5) フレキシブルライナーとジョイントパイプの接続部をシャフトグリップで覆います。(図 5-2)

シャフトグリップ
グリップ
フレキシブルライナー

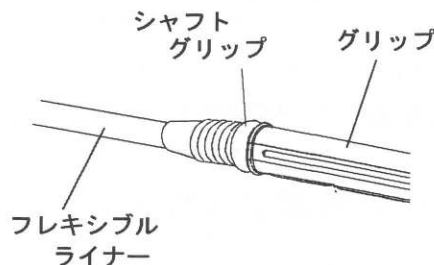



図 5-2

2. エンジンとフレキシブルライナーの接続（図 5-3）

(1) ロックピンを上に引いて、ロック穴のある方を上に向けフレキシブルライナーをクラッチケースに完全に止まるまで差し込みます。

(2) ロックピンを放し、フレキシブルライナーを左右に回してロックピンをロック穴に入れます。このときフレキシブルシャフト先端をクラッチケース内の正方形の穴に確実に入れます。

(3) フレキシブルライナーを引っ張って抜けないことを確認します。

図 5-3

3. スロットルワイヤー及びストップコードの接続（図 5-4）

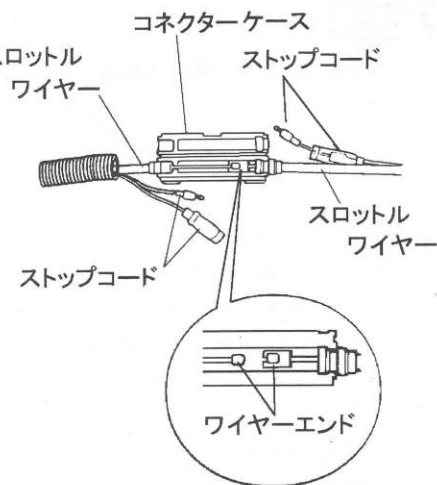
〈注〉• **モデルによりスロットルワイヤーとストップコードの取り回しがイラストと異なるものがありますが接続方法は同じです。**

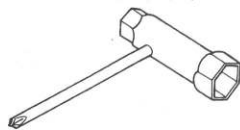
(1) 気化器から出ているスロットルワイヤーとスロットルレバーから出ているスロットルワイヤーをコネクターケースにセットします。ワイヤーエンドを接続し、コネクターケースをパチンと音がするまで閉じます。

(2) フレキシブルライナー側のストップコード 2 本とエンジン側ストップコード 2 本を確実に接続します。

(3) スロットルワイヤーとストップコードの接続が済みましたらコード押さえでフレキシブルライナーに等間隔に留めます。コード押えのフレキシブルライナー側の留めは緩くなります。

図 5-4

〈注〉• **スロットルワイヤーは無理な曲げの無いようにセットしてください。**
• **スロットルワイヤーの接続が済みましたらスロットルレバーがスムーズに動くか確認してください。**

4. ループハンドルの取付け（図 5-5）

〈注〉• 取付けには付属のコンビボックススパナを使用します。

(1) 最初に同送品の中からループハンドルを取り出し、仮留めしてあるハンドル固定具 A をはずします。

(2) ループハンドルがエンジン側に傾くようにメインパイプにセットし、確実に固定してください。

〈注〉•ループハンドルの位置はお使いになる人によって異なります。使いやすい位置を決めて固定してください。

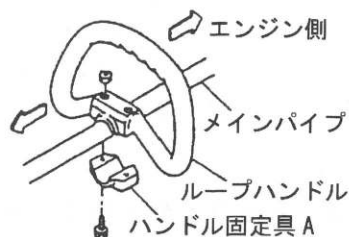



図 5-5

5. 飛散防護カバーの取付け

危険 • 飛散防護カバーは必ず取付けてください。

〈注〉• 取付けには付属の六角棒スパナを使用します。

(1) 飛散防護カバーの突起部をギヤケースの端に当てた状態でカバーブラケット、ボルトとカバーホルダーで飛散防護カバーをメインパイプに確実に固定します。（図 5-6）

〈注〉• 組付けの際、カバーホルダーを手で押えて固定してください。

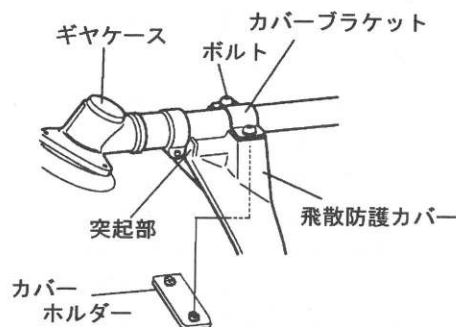



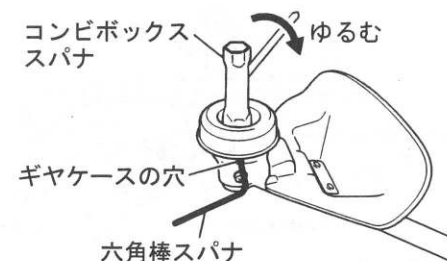
図 5-6

6. 刈刃の取付け

警告 • 取付ける前に刈刃にひび割れ、変形などがないか、よく調べてから取付けてください。
• 刈刃を取付ける際は、必ず刈刃の中心穴を刃受け金具の凸部に入れ、刃押え金具の凹面側で刈刃を挟むようにし、刈刃が偏心しないように確実に締めてください。
• 刈刃取付け後は忘れずに六角棒スパナ、コンビボックススパナをはずしてください。

注意 • 刈刃カバーを付けて作業してください。

〈注〉• 取付けには付属の六角棒スパナ、コンビボックススパナを使用します。

(1) メインパイプを 180° 回転して刈刃を取付けるギヤケースを上向きにします。（刈刃取付け後はメインパイプを逆に回して元通りにしておく）（図 5-7）

(2) ギヤケースの穴に付属の六角棒スパナをさし込みながら、付属のコンビボックススパナで取付ナットを右に回すと、六角棒スパナが少し奥に入り回転が止まります。そのまま、コンビボックススパナを右に回して、取付ナット、ナットカバー、刃押え金具をはずしてください。（図 5-7）

(3) 刈刃の取付けは、刃受け金具に刈刃（刃の向きを確認して）、刃押え金具、ナットカバーの順序で組付けます。（図 5-8、9）

図 5-7

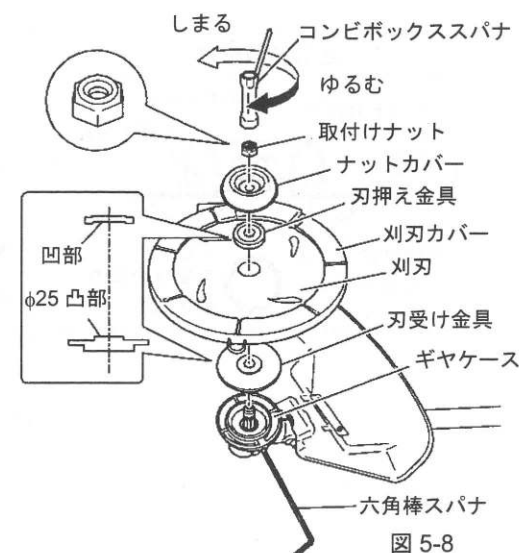



図 5-8

(4) 取付ナットの丸みのある面をコンビボックススパナ側にして取付けます。六角棒スパナをギヤケースの穴にさし込み、回り止めしてコンビボックススパナを左に回し、確実に締付けてください。
(図 5-10)

（ヘッド側から見た刈刃の向き）
図 5-9

(5) 刈刃が正しく取付けられていることを確認してください。
(図 5-9、11、12)

〈注〉• **飛散防護カバーの下面より刈刃が出ていないように取付けてください。**(図 5-11)

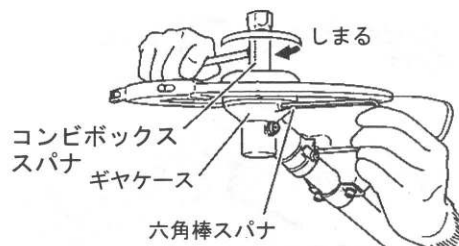



図 5-10

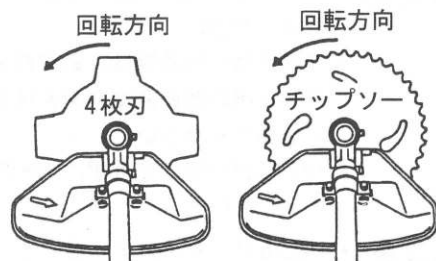
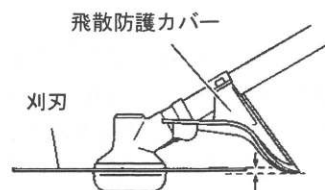



図 5-11

図 5-12

〔6〕運転方法

1. 燃料の準備

使用燃料はタナカ純正「混合ガソリン」を推奨します。
市販ガソリンを使用される場合は、25～50:1(無鉛ガソリン:2サイクル専用オイル※)の割合で混合の上、使用してください。
※ JASO 規格　FC 級オイル
別容器でよく混ぜてから燃料タンクに入れてください。(こぼれないように燃料タンクの口元一杯まで入れないで8分目位にしてください。)

図 6-1

危険 • **燃料の補給はエンジンを停止後、機体が冷えてから補給してください。**

危険 • **燃料給油中はタバコを吸ったり、その他の火気を絶対に近づけてはいけません。火災またはやけどの原因となります。(図 6-1)**

危険 • **補給中に燃料をこぼした時は良く拭き取ってください。**

〈注〉• **燃料は、必要以上に混合しないで、作業に必要な量をその都度準備してください。1ヵ月以上経過すると揮発したり、腐敗してエンジンが故障する原因になります。**

〈注〉• **燃料は、ガソリン専用の容器に入れて、火気のない場所で保管または運搬してください。**

〈注〉• **ガソリンだけで絶対に運転しないでください。エンジンが故障する原因となります。**

2. 始動方法

警告 • **エンジン始動と同時に刈刃が回転する場合がありますので刈刃は地面、その他に接触させないでください。**

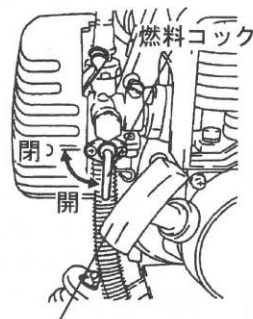
警告 • **フレキシブルライナー部分は、やわらかくて自由に動きますので動かないように固定して始動してください。**

警告 • **スターターハンドルを引いてから遅れてエンジンが始動する場合がありますので注意してください。**

(1) スロットルレバーがアイドルの位置にあることを確認して、ストップスイッチを運転の位置にします。
(図 6-2)
(2) 燃料コックを開の位置にします。
(図 6-3)
(3) チョークレバーを全閉にします。
(図 6-4)
(4) スターターハンドルを数回力強く引いてください。最後まで引ききらないでください。
(図 6-5)

図 6-2

図 6-3

▲注意 • **引いた後ロープをゆっくり戻してください。**

(5) 初爆(ポン、ポンという爆発音がします)がありそのまま継続していたらチョークレバーを徐々に開の位置にしてください。
(6) (5) の操作で2～3回爆発して停止したら、チョークレバーを開の位置にして、再度スターターハンドルを引いてエンジンを始動してください。
(7) (6) の操作でも始動しない場合は (3) からの操作を繰り返してください。
(8) 始動したら使用前に低速回転で2～3分間暖機運転をしてください。

• **エンジンが暖まっている時の再始動はチョークレバーを全開位置のままスターターハンドルを引いてください。**

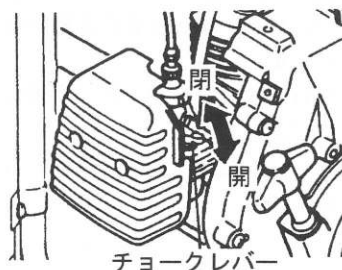



図 6-4

図 6-5

3. 停止方法

▲警告 • **スロットルレバーをアイドルの位置にしたとき刈刃の回転が止まるのを確認してください。**
刈刃の回転が止まらない場合は、アイドリングの回転数が低くなるように調整してください。(P 16「気化器」参照)

▲警告 • **機体から離れるときは、必ずストップスイッチを押してエンジンを停止してください。**

(1) エンジンを停止する時は、スロットルレバーをアイドルの位置に戻し、ストップスイッチを停止位置にします。
(図 6-7)

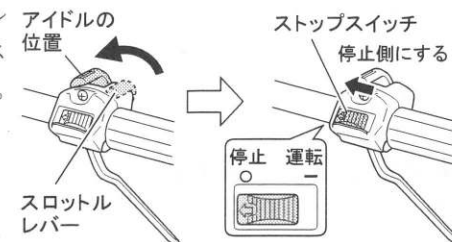



図 6-7

〔7〕保守・点検・整備

▲警告 • **保守・点検・整備の際は、必ずエンジンを止めて機体が冷えた状態で行ってください。また、点火プラグキャップをはずしてください。**

▲警告 • **保守・点検・整備後は、すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。**

▲警告 • **不具合箇所が発見されましたら、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

使用前の点検・整備について

製造時の振動レベルを劣化させないため、作業を開始する前に必ず機体各部の点検・整備を行い異常がないことを確かめてください。
①ハンドルの変形、破損、及びハンドル取付部のゆるみ、破損
②各部のボルト、ナットなどのゆるみ、破損

● リコイルスターター

▲警告 • **危険ですので、リコイルスターターを分解しないでください。**
スターターハンドルが軽く引けない場合や、スターターハンドルを引いてもエンジンが始動しない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

● 気化器

(1) 気化器の調整は、工場出荷時に済んでおりますので、なるべくさわらないでください。
(2) アイドリング回転が、高すぎる時（刈刃が回っている時）または低すぎる時（エンジンが停止する時）は、アイドル調整ネジで調整してください。（右回しでアイドリング回転が高くなり、左回しで低くなります）（図 7-1）

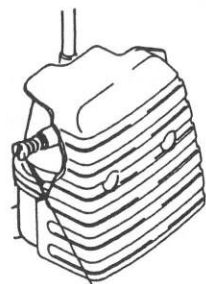



図 7-1

● 点火プラグ（図 7-2）

(1) 点火プラグは指定のものを使用してください。（仕様参照）
(2) 最良の運転状態では点火プラグの電極が茶褐色に乾燥しています。火花間隙は 0.6mm です。
(3) 汚損した場合は掃除し、ガソリンで洗い、乾かしてから使用してください。

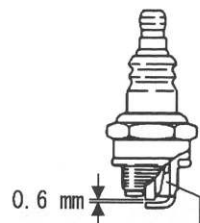



図 7-2

● エアクリーナー（図 7-3）

(1) クリーナースポンジが汚れ、目づまり状態になると出力低下や始動困難になります。クリーナスポンジは時々掃除し、汚れを落として目づまりを防いでください。
(2) クリーナースポンジを掃除する時は、ガソリンで洗ってかたくしぼり、乾燥させてから取り付けてください。

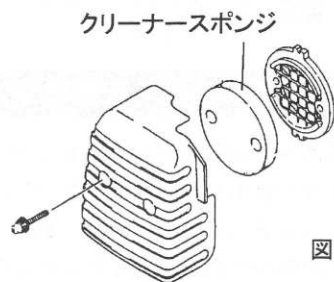



図 7-3

● 燃料フィルター（図 7-4）

(1) 燃料フィルターがつまるとガソリンが流れずエンジンの回転不調の原因となります。時々点検してください。
(2) 燃料フィルターは気化器のバンジョーボルトに付いていますので掃除する際はバンジョーボルトをはずし、ガソリンで良く洗ってください。（汚れのひどい時は交換してください。）

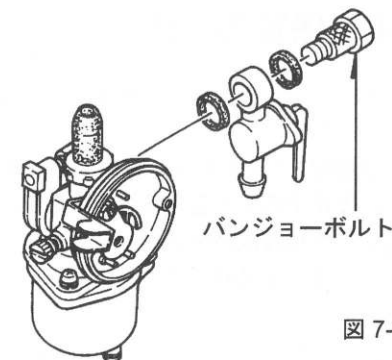



図 7-4

● マフラー（図 7-5）

(1) 長時間運転しますと、排気口の内部にカーボンが付着し、出力低下の原因になります。時々掃除してください。

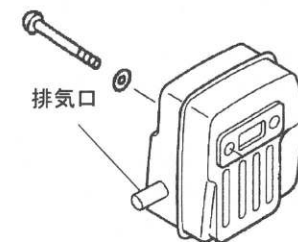



図 7-5

● ギヤケース（図 7-6）

(1) 50 時間使用毎にグリスを補充してください。
(2) ギヤケースヘッド部の側面にあるネジをはずし、そのネジ穴からグリスを注入してください。

〈注〉 • **ネジを元の位置に取付ける際は、ゴミや土をよく取り除いてください。**

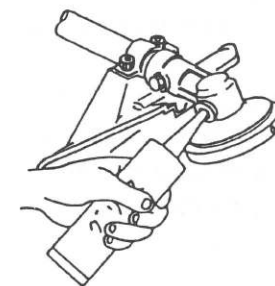



図 7-6

● フレキシブルシャフト

使用 15 ～ 20 時間毎にフレキシブルシャフトに下記の方法でグリスを給油してください。

(1) フレキシブルライナーをクラッチケースからはずします。
(2) きれいな新聞紙を敷いた上にフレキシブルシャフトを抜き出します。
(3) ごみや砂などが付かないように、注意しながらフレキシブルシャフト全体に薄くグリスを塗り、そのまま元通りにフレキシブルライナーに差し込みます。

〔8〕保管の方法

- 各部を十分に清掃し、金属部にはさびないように2サイクル専用オイルを薄く塗ってください。
- **長期間（1ヶ月以上）保管するときは、燃料タンクから燃料を抜き取ってから自然に停止するまで空運転し、気化器の中の燃料を完全になくしておきます。**

〈注〉・**気化器内の燃料を抜くときは気化器下のドレン抜きネジをゆるめ、また元通りネジを締めてください。**

- 点火プラグをはずし、プラグの穴から少量の2サイクル専用オイルをシリンダーに流し込み、スターターハンドルを数回引きオイルが行き渡るようにしてください。
  点火プラグを元通りに取付けてください。
  作業時に、油滴等が飛び散ることがありますので、保護メガネ等で目を保護してから作業してください。
- スターターハンドルを引っ張って圧縮のあるところ（重くなったところ）で止めてください。
- 損傷箇所がある場合は必ず修理してから保管してください。
- 背負式刈払機を移動、保管する場合は安全のため、必ず付属の刈刃カバーを取付けてください。（刈刃カバーが半円の分割型の場合は刈刃の大きさに合わせて接続してお使いください）（図8-1）
- ホコリ、湿気のない乾燥した、又温度が50℃以上にならない場所に保管してください。
- 子供の手の届かない安全な場所に保管してください。
- 燃料は屋内の火気の心配のない、冷たい乾いたところに、安全な容器にいれて保管してください。古くなった燃料は故障の原因となりますので使用しないでください。

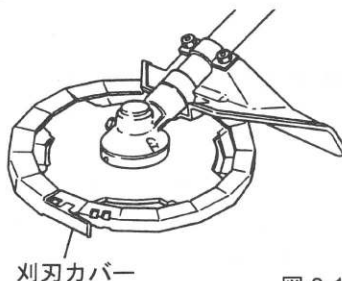



図8-1

〔9〕故障診断

⚠注意 ・**修理に使用する部品は必ず指定の純正部品を使ってください。**

1. エンジンがかからない時

① 燃料関係

- 燃料コックが開いてない ―― 燃料コックを開ける
- 燃料タンクに燃料がない、又は少ない ―― 正しい混合比（25～50:1）の燃料を入れる
- 燃料タンクに古い（腐った）燃料が残っている ―― 正しい混合比（25～50:1）の燃料を入れる
- 燃料を吸い込みすぎ点火プラグが濡れている ――
  1. 点火プラグをはずす
  2. スターターハンドルを5～6回引いて余剰燃料を出す
  3. 点火プラグを装着する「点火プラグ」参照
  4. チョークを開きスターターハンドルを引く
- 燃料パイプが折れ曲がっていたり、外れたりしている ―― 燃料が流れ易いようにする
- 気化器の不調 ―― 販売店に相談する

② 電気系統

- ストップスイッチのリード線がショートしている ―― 修理又は交換する
- 点火プラグが汚損している ―― 交換又は掃除する
- 点火プラグのギャップが広い ―― 0.6 mmに修正する
- 点火コイルの高圧コードと点火プラグの接続が悪い ―― 接続を直す
- 点火コイルの不良 ―― 交換する

2. エンジンはスタートするがすぐ停止する。又は停止しそうになる

① 燃料関係

- 燃料タンク内に燃料が少ない ―― 正しい混合比（25～50:1）の燃料を入れる
- 燃料タンクに古い（腐った）燃料が残っている ―― 正しい混合比（25～50:1）の燃料を入れる
- ガソリンのみを使用している ―― 販売店に相談する

- チョークレバーが閉になっている ―――― チョークレバーを開にする
- 燃料系統に空気が混入する ―――― 燃料パイプや継手にヒビが入っていないか、又接続はしっかりしているかを調べる
- 気化器の不調 ―――― 「気化器」参照又は販売店に相談する

② 電気系統（点火ミスをする）
- 点火プラグの不良 ―――― 交換する
- 点火コイルの不良 ―――― 交換する

③ その他
- エンジンのオーバーヒート
  - 点火プラグの番手違い ―― 指定品に交換する「仕様」参照
  - シリンダー回りのゴミづまり ―― 掃除する
  - 冷却風吸い込み口のゴミづまり ―― 掃除する
- エアークリーナーの汚れ ―――― 掃除する
- カーボンづまり（排気口）―――― 掃除する
- 圧縮不足
  （ピストン、ピストンリング、シリンダー）―――― 交換する

3. 異常振動が出た場合

① 刈刃の取付け不良 ――――「刈刃の取付け」参照
② ハンドル、ハンドル固定具 ―――― チェックして増締めする
その他の締付け部のゆるみ
③ 刈刃の曲がり、又は損傷 ―――― 交換する
④ ギヤケースに雑草が巻付いている ―――― 取り除く
⑤ 点火プラグの劣化、損傷による ―――― 交換する

〈注〉・「故障診断」で対応できない場合はお買い上げの販売店にご相談下さい。

MEMO